

施設日向夏の品種特性

農業技術センター果樹試験場

【背景・ねらい】

近年、県内で日向夏の新しい品種が生まれており、それらの施設栽培での特性を明らかにする。

なお、今までの普通日向夏の施設栽培は、夜温0～2℃の補助加温で、受粉樹として、黄金柑、ブンタン等が混植されていた。しかし、露地に比較し、糖度の低下などの品質低下があげられ、対策が必要とされていた。

【新技術の内容・特徴】

1. ‘宿毛小夏’は、糖度が高く、クエン酸含量が低く、現行の施設栽培により3月以前の出荷が可能である。また、早く収穫することにより、次年度作の着果が安定する（第1～5図、第1、2表）。
2. ‘西内小夏’は、糖度がやや低く、普通日向夏より熟期がやや遅いが、自家結実し、豊産性である（第1～4図、第1、2表）。また、普通日向夏、‘宿毛小夏’に比較し、玉揃いがよく秀品率が高い（第6図）。
3. ‘西内小夏’の花粉を普通日向夏、‘宿毛小夏’に受粉すると、着果率は低い、少核果となる（第3表）。

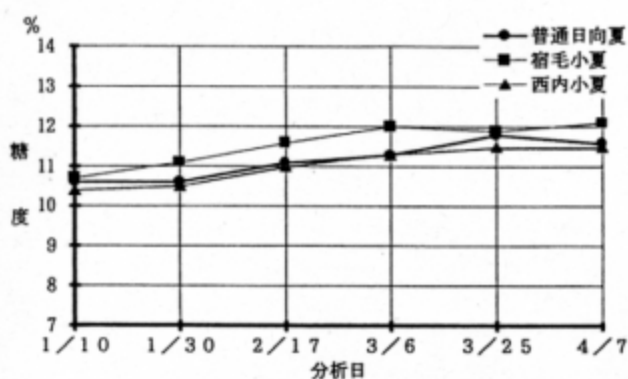
【留意点】

1. ‘宿毛小夏’は、品質は良いが、果面が、普通日向夏、‘西内小夏’に比較し荒れやすい。
2. ‘西内小夏’は着果過多となりやすいので、次年度の母枝の確保のための剪定及び摘果が必要である。
3. ‘西内小夏’と‘西内小夏’の花粉を受粉した普通日向夏、‘宿毛小夏’は、2次生理落果後も、気象の変化（連続した曇天後の晴天続きなど）により落果しやすいので注意が必要である。
4. 適用範囲は県内の施設日向夏栽培地帯とする。

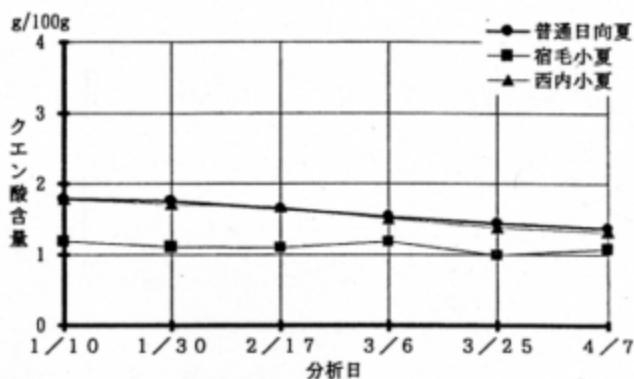
【評 価】

施設における‘宿毛小夏’、‘西内小夏’の品種特性が明らかになり、早期出荷、品質向上、安定生産が図られ、農家の経営安定が期待される。

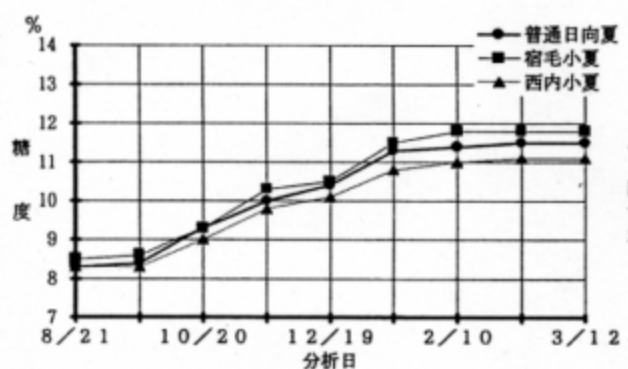
[具体的データ]



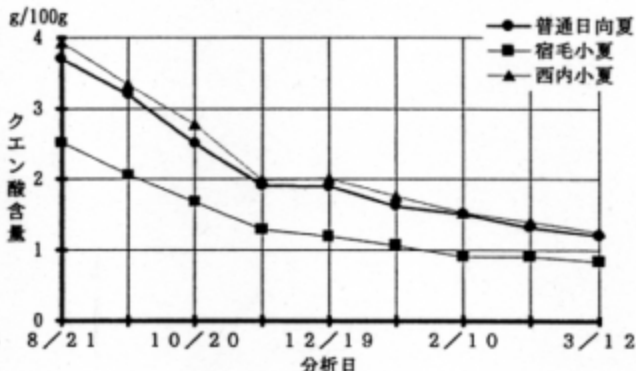
第1図 1996年度糖度の推移



第2図 1996年度クエン酸含量の推移



第3図 1997年度糖度の推移



第4図 1997年度クエン酸含量の推移

注) 1996年栽培は冬季最低夜温2℃補助加温、1997年栽培は、冬季1月上旬までは最低夜温2℃、1月中旬から収穫まで最低夜温13℃設定（二重被覆）。

宿毛小夏の1996年度3/25、4/7、1997年度の3/2、3/12の分析の果実は収穫後10℃に貯蔵していたもの。

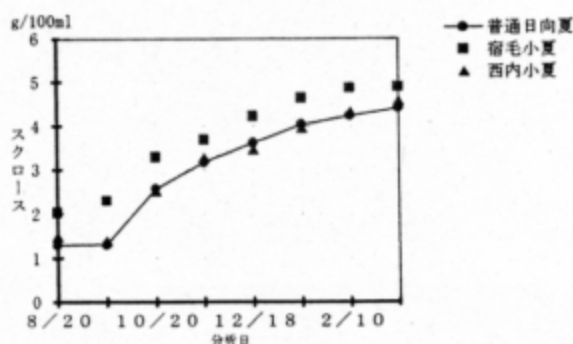
第1表 年度別の果実品質

分析月日	糖 度			クエン酸含量 (g/100g)			糖 酸 比		
	普 通	宿 毛	西 内	普 通	宿 毛	西 内	普 通	宿 毛	西 内
1996.2.17	11.1	11.6	11.0	1.65	1.10	1.67	6.7	10.5	6.6
1997.2.10	11.3	11.8	11.0	1.51	0.91	1.53	7.5	13.0	7.2
1996.3.6	11.3	12.0	11.3	1.53	1.18	1.50	7.4	10.2	7.5
1997.3.2	11.5	11.8	11.1	1.32	0.91	1.40	8.7	13.0	7.9

注) 1996年栽培は冬季最低夜温2℃補助加温、1997年栽培は、冬季1月上旬までは最低夜温2℃、1月中旬から収穫まで最低夜温13℃設定（二重被覆）。

宿毛小夏の1997年度の3/2の分析の果実は収穫後10℃に貯蔵していたもの。

1996年度の収穫日は、宿毛小夏が3/6、普通日向夏、西内小夏が4/7、1997年度の収穫日は、宿毛小夏が2/12、普通日向夏、西内小夏が3/12。

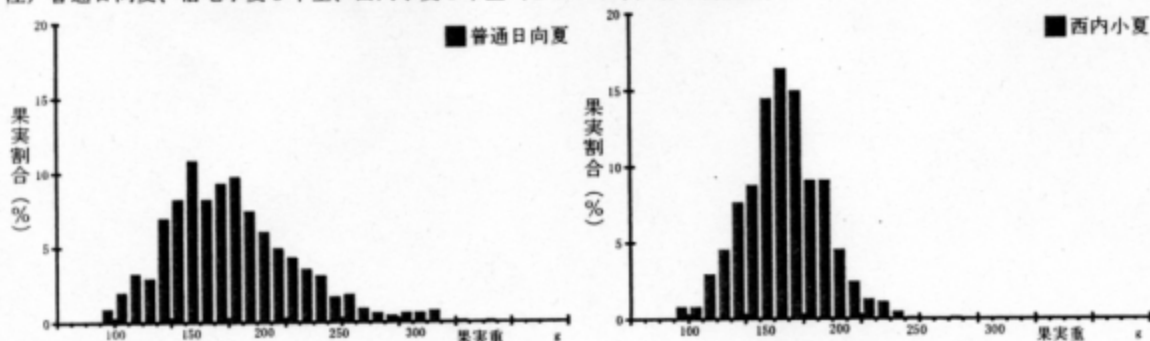


第5図 スクロースの推移（1997年度）

第2表 各品種の収量（1樹平均）

品 種	年 度	収 量		平 均 1 果 重	樹容積 m ³	1 m ³ 当たり 着果数	葉果比
		重量 kg	果実数 個				
普通日向夏	1996	22.0	132.8	165.4	6.3	21.6	21.3
	1997	18.5	107.3	179.1	9.0	11.8	32.5
	1998	13.6	70.5	193.7	10.9	6.5	—
宿毛小夏	1996	11.1	71.3	156.1	6.6	12.3	50.0
	1997	20.2	127.8	157.4	10.7	11.9	31.0
	1998	19.5	129.0	151.1	11.3	11.4	—
西内小夏	1996	9.0	59.2	152.0	2.9	22.4	26.9
	1997	15.9	101.3	156.6	5.0	21.0	19.7
	1998	11.6	63.5	184.3	6.6	9.6	—

注) 普通日向夏、宿毛小夏9年生、西内小夏6年生（1998年）各6樹調査。



第6図 普通日向夏、西内小夏の1果重別果実割合

（1997年度、普通日向夏643果調査、西内小夏608果調査）

第3表 西内小夏花粉の受粉特性

受粉花粉	着果率 %	種子数			平 均 一果重 g
		完全種子 個	シイナ 個	痕跡 個	
普通日向夏 西内小夏	35.0	0.9	0.7	0.9	136.8
宿毛小夏 西内小夏	25.0	0.7	12.3	28.3	166.7
西内小夏 普通日向夏	0	—	—	—	—

注) 日向夏、西内小夏への受粉は、1996年施設で各60花処理、宿毛小夏では1997年施設で60花処理したもの。

[その他]

研究課題名：日向夏の施設栽培による早期出荷技術の確立

研究 期 間：平成4～10年度、予算区分：県単

研究担当科：常緑果樹科

分 類：普 及